

一般社団法人地盤品質判定士会神奈川支部
2023年度(令和5年度)総会及び講演会の開催報告

一般社団法人地盤品質判定士会神奈川支部の第7回総会及び講演会を、下記要領で開催した。

日 時 出席者数	<p>2023年(令和5年)5月14日(日)</p> <p>支部総会 13:30~14:30 出席者数 31名</p> <p>講演会 14:30~16:20 出席者数 33名</p> <p>演題「宅地の未災学」; 講演者: 釜井俊孝様(京都大学名誉教授)</p>
総会会場	<p>横浜市社会福祉総合センター 8階大会議室(〒231-0062 横浜市中区桜木町1-1)</p> <p>ZOOMを利用したWEB参加によるハイブリット形式</p>
総会の概要	<p>【審議事項】</p> <p>第1号議案: 2022年度(令和4年度)事業報告・会計報告/監査報告</p> <p>第2号議案: 2023年度(令和5年度)事業計画・予算(案)</p> <p>第3号議案: 2023年度(令和5年度)役員一部交代・補強</p> <p>≪2023年度(令和5年度)事業計画概要≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新中期計画のもと、継続事業をさらに進展させるとともに、新事業の足場を固める ・一般市民相談、行政の市民相談会への対応力を高める 1) 一般市民相談の高止まり、行政の相談会の定例化への対応 2) 会員の資質向上を目指し、市民相談に役立つ事例集等の編集を進める 3) 登録相談員の参加意欲を高め、市民相談への戦力化を図る <ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動をさらに活発化し、共創の輪を広げる 1) 行政との連携を深め、協定未締結の自治体への働きかけを探る 2) 市民団体、関連の業界団体等との連携のきっかけづくりを目指す 3) 既往提携団体に加え、市民が参加できる共創の場を造る 4) ぼうさいこくたい2023を契機につなごうの拡大を図る <ul style="list-style-type: none"> ・一社) 地盤品質判定士会本部・他支部との連携・協働対応 1) 他支部と連携して本部を支え、緊急・災害等への対応力を強化する <p>※いずれの議案も出席者全員から賛同を得て承認された。</p> <p>会員総数 80名, 出席者 29名, 委任状 18名: 合計 47名(過半数にて成立)</p>

<p style="text-align: center;">講演会</p>	<p>演題「宅地の未災学」；講演者：釜井俊孝様（京都大学名誉教授）</p> <p>キーワード：宅地崩壊，ソイルパイプ，地下水，税制，宅地防災組合</p> <p>確実に危険とまでは言えないが、安全であると太鼓判を押すこともできない地域を「未災の場（土地）」と呼び、これを議論する学問を「未災学」と呼びたい。</p> <p>我々の近くにある「斜面」は典型的な「未災の場」であり、日本人は、そうした場所で災害と折り合って生きてきた。</p> <p>未災学は、日本人が本来持っていた、「自分の身は自分で守る」、「自然良く観察する」、「(将来のために) 欲望を抑制する」といった感覚を再生し、災害（自然）との共生を目指す学問でありたいとし、地学を基礎として、失われた日本人の「野生」を取り戻す試みである。今回は、宅地を舞台に、そこで展開される未災について講演された。</p> <p>中でも、ソイルパイプ（連続した空洞）が宅地崩壊に繋がる事例の多いこと、局所的に急増する過剰間隙水圧に着目すべきことを強調された。</p> <p>また、講演の後、以下のような闊達な質疑がされた。</p> <p>Q:地盤技術者に対する期待を教えてください？</p> <p>A:版築や桂離宮の例に示す如く、日本人は歴史の中で実施してきた。</p> <p>Q:宅地盛土の排水が機能しているかどうか等を確認する方法は？</p> <p>A:ボアホールカメラを入れることや、人孔を設け管理することなどがある。また、盛土規制法で土地所有者に管理の責任がある事が明記された。</p> <p>Q:斜面で加速度を計測した例があったが、安定解析に関して、加速度を細かく分ける必要がありますか？</p> <p>A:特に地山に盛土をされている場合、加速度を多くかける必要がある。</p> <p>Q:斜面の崩壊を見ているなかで、パイピングは関東ロームの中に多くみられる、メカニズムはどの様なものですか？</p> <p>A:パイプに水は流れる場所が不均質なので、卓越流となって形成される。</p> <p>Q:盛土をする場合、排水層を設けることは有効なのか？</p> <p>A:地下の均質な流れを排水するものなので、不飽和帯の排水をするのは難しい</p> <p>Q:ソイルパイプの発生位置を予測する方法はありますか？</p> <p>A:なかなか難しい。ただし、盛土底面は発生しやすい。さらにはパイプを考慮した安定解析が難しい。パイプ流の評価ができるようになると良い。</p> <p>Q:地震観測などの公開をする予定がありますか？</p> <p>A:データの公開は何回か実施している。継続して観測している箇所もある。</p> <p>Q:第三紀の泥岩での岩砕盛土に関して、安全性について聞きたい？</p> <p>A:地下で風化している場合あり、ここが崩壊する可能性がある。</p>
<p style="text-align: center;">主催</p>	<p>一般社団法人 地盤品質判定士会 神奈川支部 (神奈川支部ホームページ：http://www.hanteishi.org/kanagawa/) (事務局 (株) 環境地質サービス内)</p>

2023年度の役員・組織は、以下のとおり。

- ・ 支部長 立花 秀夫
- ・ 副支部長 高橋 一紀
- ・ 幹事 小倉 章, 山田 岳峰, 西村 真二, 岸田 隆夫, 野島 立也, 沼上 清
 福田 靖浩, 大串 豊, 神川 清, 斉藤 眞弘, 古市 秀雄
 今村 誠治, 堀田 統
- ・ 監事 片山 浩明
- ・ 事務局補佐 村岡 史子
- ・ サポーター 小浪 岳治, 福元 俊一, 伊東 広敏, 鈴木 考生
 細倉 撰央, 大久保 拓郎, 渡井 富喜男



写真-1 支部長挨拶 立花秀夫



写真-2 理事長挨拶 北詰 昌樹



写真-3 総務委員会 福田靖浩



写真-4 技術委員会 小倉 章

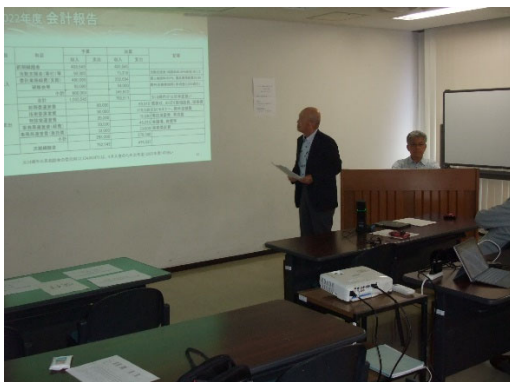


写真-5 事務局 今村 誠治



写真-6 川崎市 石川武彦様 ご来賓ご挨拶の様子



写真-7 講演会 釜井俊孝様ご講演の様子



写真-8 講演会 川崎市 小室 聖様 質疑の様子